

区民・事業者アンケート、ワークショップ、  
関係団体ヒアリング報告書

令和6年11月

板橋区

資源環境部環境政策課

## 目 次

---

1	各調査の概要.....	1
2	区民アンケート.....	2
3	事業者アンケート.....	4
4	児童生徒アンケート.....	7
	（1）小学生.....	7
	（2）中学生.....	10
5	ワークショップ.....	13
	（1）板橋区環境基本計画改定に向けたワークショップ 「板橋の環境の『いま』と 『ミライ』を考えよう」.....	13
	（2）子どもワークショップ「板橋の環境のミライをえがこう！」.....	17
6	関係団体ヒアリング.....	18
	（1）板橋区における環境についての認識や課題.....	18
	（2）区やそのほかの主体との連携について.....	19
	（3）区への要望・期待.....	20

# 1 各調査の概要

「(仮称)板橋区環境基本計画 2035」の策定に向け、区民・事業者の環境問題に対する意識や区内の環境に対する現状認識、環境に配慮した取組の実施状況、区の環境施策に対する意見を把握するため、アンケート調査、ワークショップを下記のとおり実施した。

区民アンケート 対象 2,000人	令和6年9月2日(月) ～9月20日(金)	回答数 504人 回答率 25.2%
事業者アンケート 対象 500社	郵送またはWEB回答	回答数 127社 回答率 25.4%
児童生徒アンケート 対象 区立小学校5年生 区立中学校8年生	令和6年9月4日(水) ～9月27日(金) WEB回答	回答数・回答率 小学校5年生 2,332人・58.8% 中学校8年生 1,806人・58.8%
板橋区環境基本計画改定 に向けたワークショップ	令和6年9月14日(土) 28日(土) 10月5日(土)	参加者数 延べ45名 第1回 17名 第2回 15名 第3回 13名
子どもワークショップ	令和6年8月4日(日) 6日(火) 22日(木)	参加者数 68名(3日間計)
関係団体ヒアリング	令和6年9月～10月	11団体にヒアリング (環境活動団体、教育機関、経済 団体、エネルギー供給事業者、産 業団体等)

## 2 区民アンケート

### ①板橋区が今後重点的に取り組むべきだと思うこと

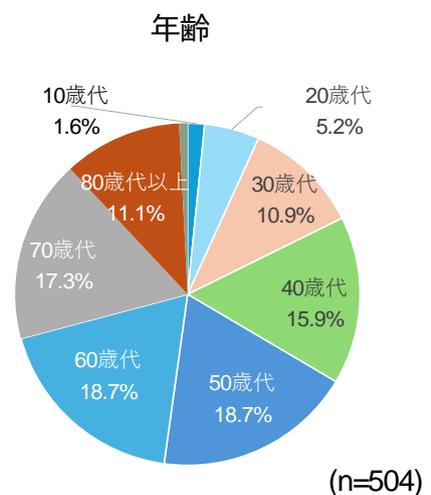
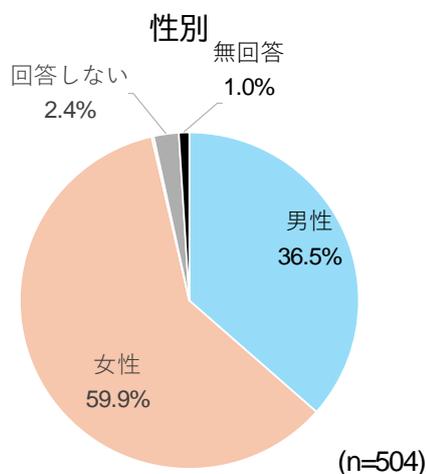
- ・豪雨の頻発など水害等のリスク増加に対応した水害対策、省エネルギーの取組の定着やエネルギー使用状況の見える化など、気候変動対策（緩和・適応）を重視

### ②区民が今後重点的に取り組むべきだと思うこと

- ・「ごみの削減」や「資源の有効利用（分別及びリサイクル）」を重視

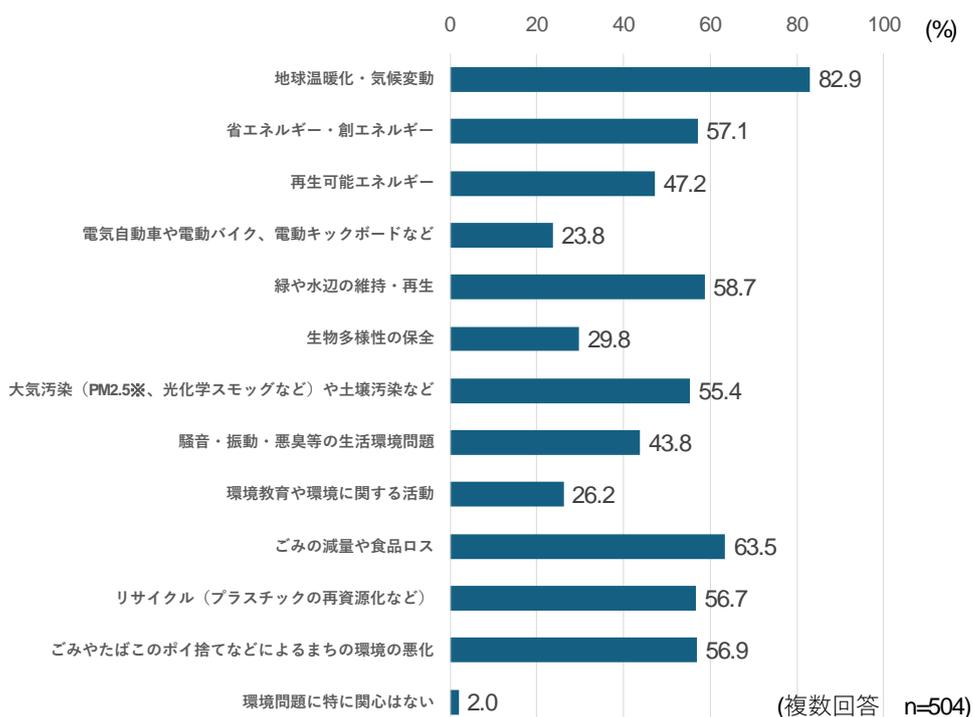
### <主な設問の集計結果>

#### ア 属性



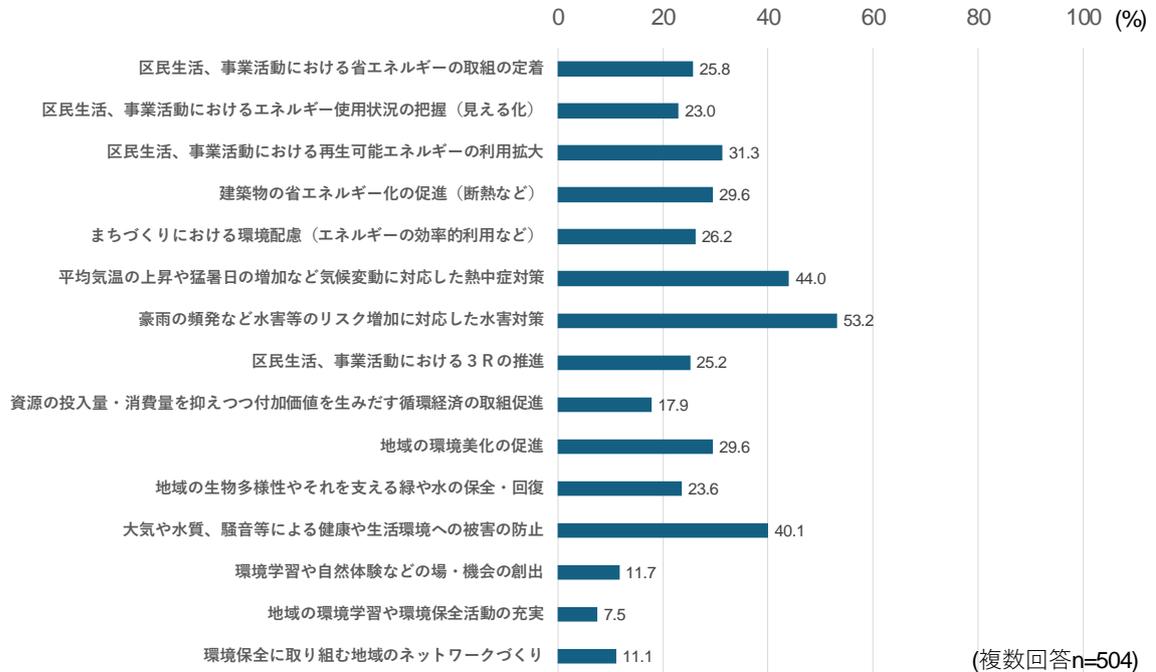
#### イ あなたが関心を持っている環境問題について、当てはまるものをすべて選んでください。

「地球温暖化・気候変動」が82.9%と最も多く、次いで「ごみの減量や食品ロス」が63.5%、「緑や水辺の維持・再生」が58.7%となっている。



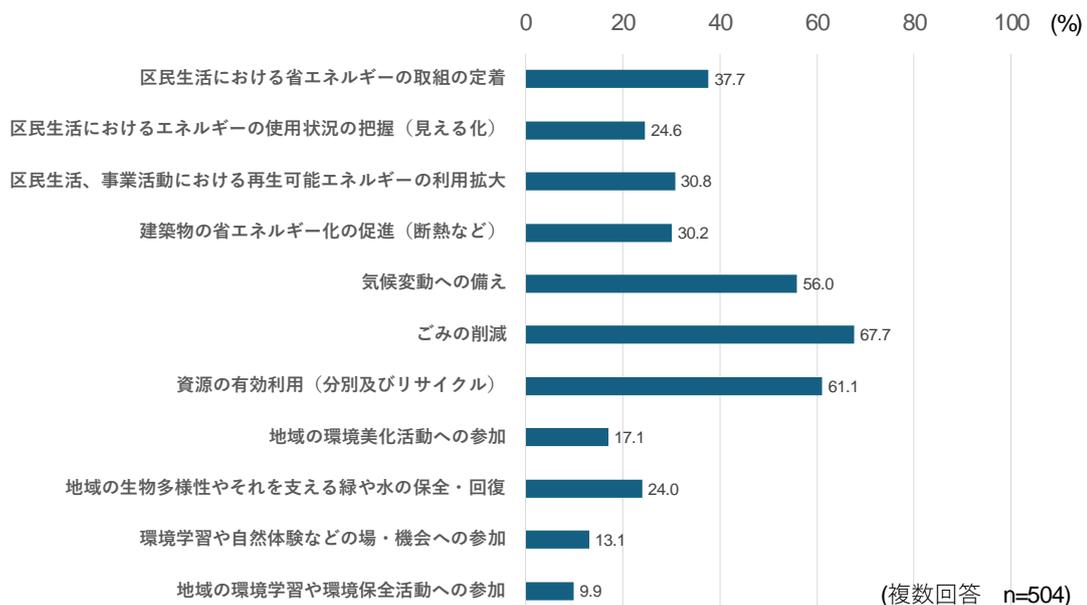
**ウ 地域の環境をより良くしていくために板橋区が今後重点的に取り組むべきだと思うことを選んでください。**

「豪雨の頻発など水害等のリスク増加に対応した水害対策」が53.2%と最も多く、次いで「平均気温の上昇や猛暑日の増加など気候変動に対応した熱中症対策」が44.0%、「大気や水質、騒音等による健康や生活環境への被害の防止」が40.1%となっている。



**エ 地域の環境をより良くしていくために区民が今後重点的に取り組むべきだと思うことを選んでください。**

「ごみの削減」が67.7%と最も多く、次いで「資源の有効利用（分別及びリサイクル）」が61.1%、「気候変動への備え」が56.0%となっている。



### 3 事業者アンケート

#### ①板橋区が今後重点的に取り組むべきだと思うこと

- ・豪雨の頻発など水害等のリスク増加に対応した水害対策、熱中症対策、省エネルギーの取組の定着など、気候変動対策（緩和・適応）を重視

#### ②事業者が今後重点的に取り組むべきだと思うこと

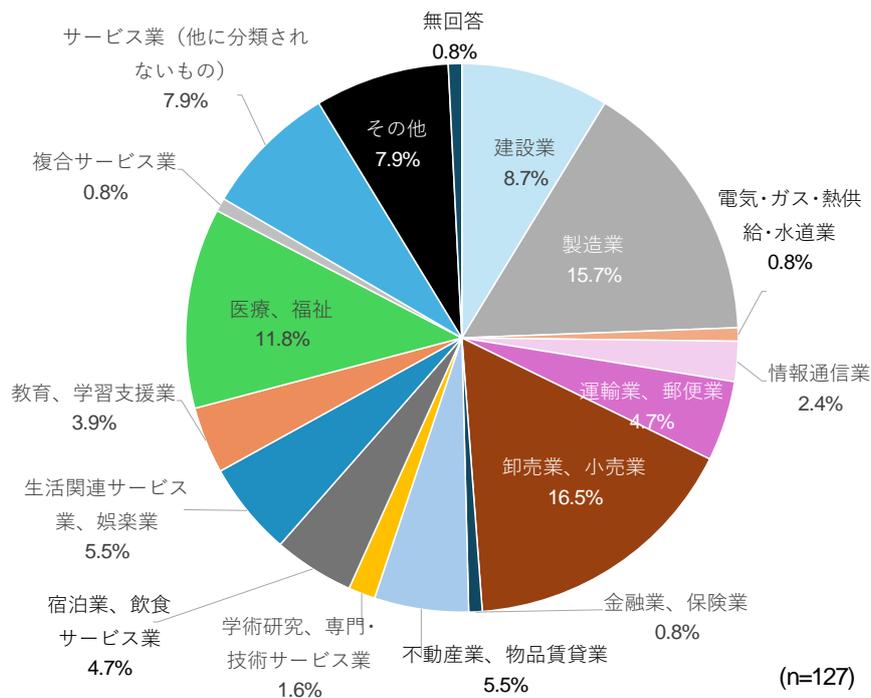
- ・ごみの削減、資源の有効利用（分別及びリサイクル）、事業活動における省エネルギーの取組の定着を重視

#### <主な設問の集計結果>

##### ア 属性

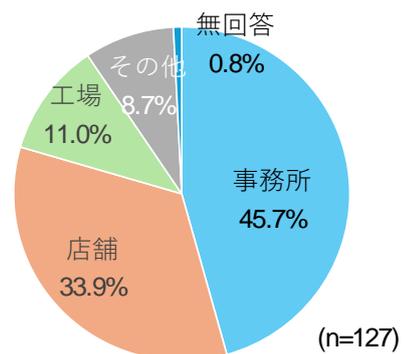
##### ①-1 業種

「卸売業、小売業」が16.5%と最も多く、次いで「製造業」が15.7%、「医療、福祉」が11.8%となっている。



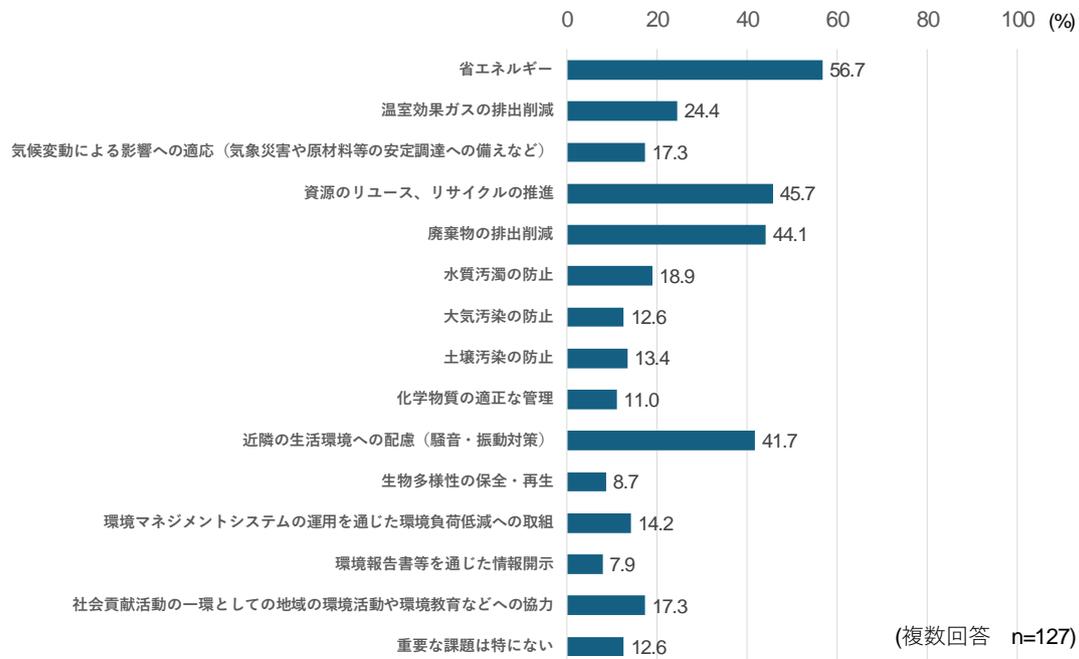
##### ①-2 事業所の形態

「事務所」が45.7%と最も多く、次いで「店舗」が33.9%、「工場」が11.0%となっている。



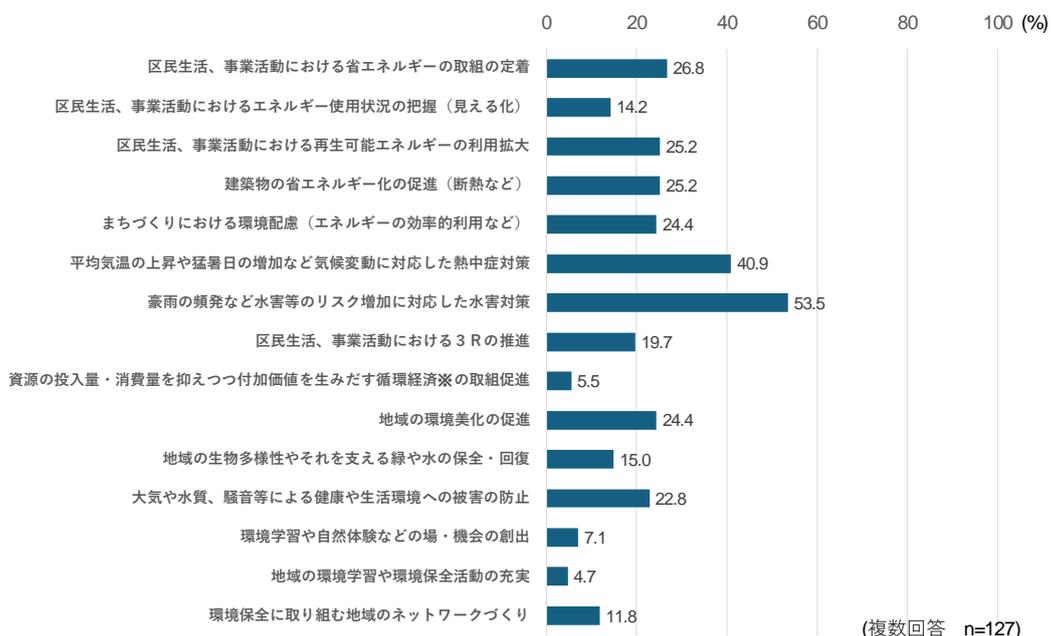
**イ 貴社の事業活動において重要視している環境課題について、当てはまるものをすべて選んでください。**

「省エネルギー」が56.7%と最も多く、次いで「資源のリユース、リサイクルの推進」が45.7%、「廃棄物の排出削減」が44.1%、「近隣の生活環境への配慮（騒音・振動対策）」が41.7%となっている。



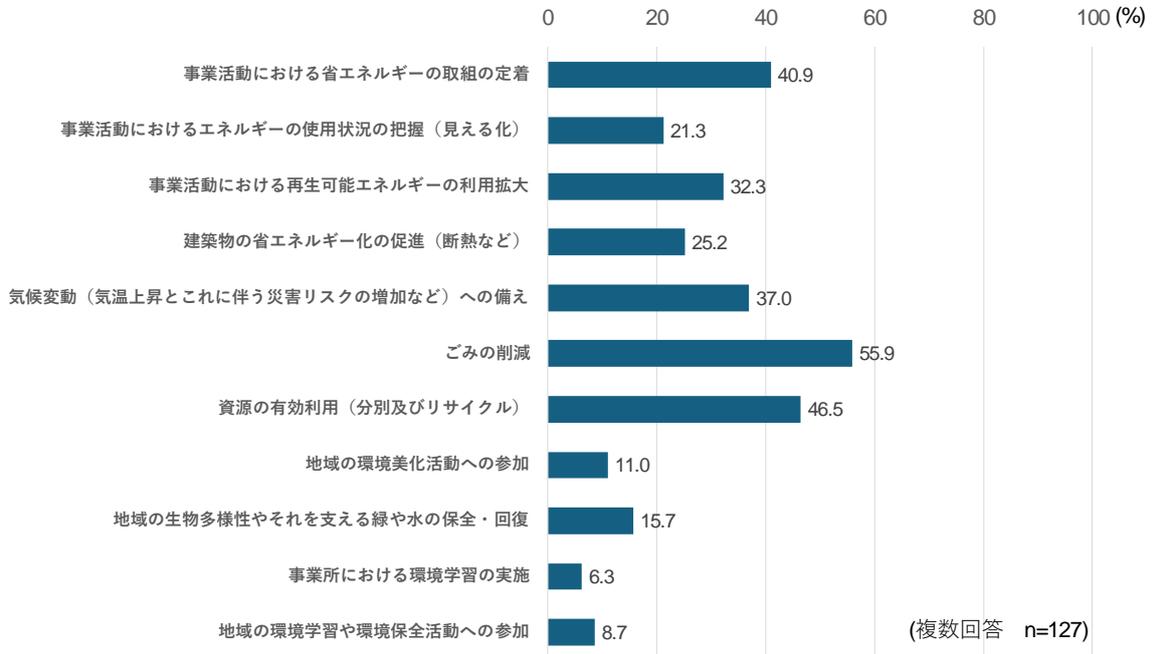
**ウ 地域の環境をより良くしていくために板橋区が今後重点的に取り組むべきだと思われることを選んでください。**

「豪雨の頻発など水害等のリスク増加に対応した水害対策」が53.5%と最も多く、次いで「平均気温の上昇や猛暑日の増加など気候変動に対応した熱中症対策」が40.9%、「区民生活、事業活動における省エネルギーの取組の定着」が26.8%となっている。



**工 地域の環境をより良くしていくために区内の事業所が今後重点的に取り組むべきだと思うことを選んでください。**

「ごみの削減」が 55.9%と最も多く、次いで「資源の有効利用（分別及びリサイクル）」が 46.5%、「事業活動における省エネルギーの取組の定着」が 40.9%となっている。



## 4 児童・生徒アンケート

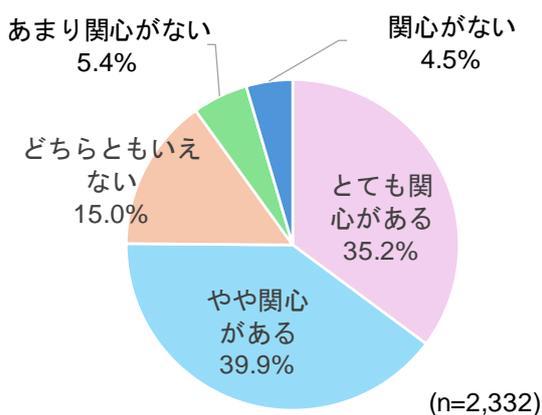
- ・小学生は「自然や生きものの保全」、中学生は「自然や生きものの保全」「地球温暖化」に高い関心
- ・小学生、中学生とも、環境について知り、学ぶ機会は「学校の授業」や「テレビ」
- ・小学生、中学生とも、学校などで学びたい環境問題は「地球温暖化」

### (1) 小学生

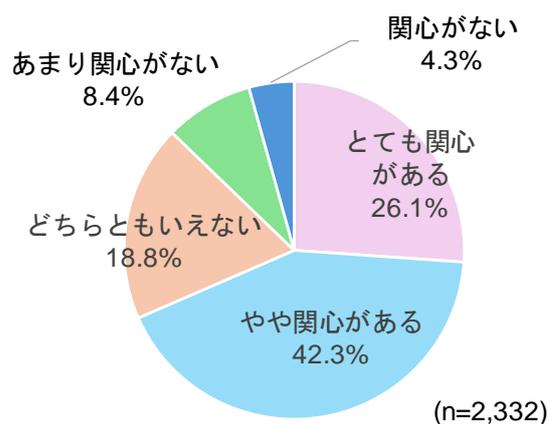
#### ア あなたは、次の環境問題にどのくらい関心を持っていますか？

「自然や生きものの保全」に「とても関心がある」と回答した生徒が最も多く、「大気や水の汚染などの公害問題」に対して、「関心がない」もしくは「あまり関心がない」と回答した生徒が多い。

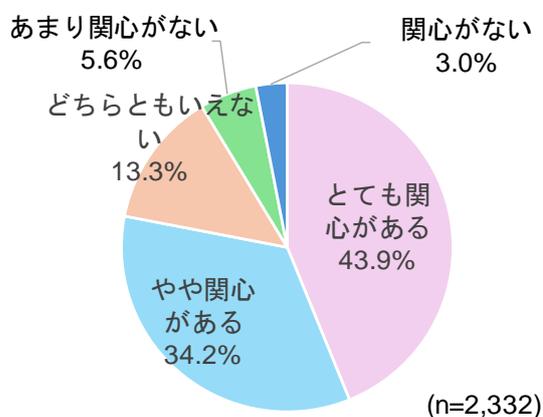
<地球温暖化>



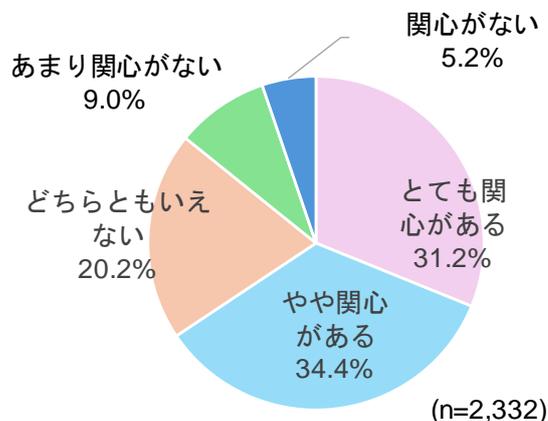
<ごみ、資源の問題>



<自然や生きものの保全>

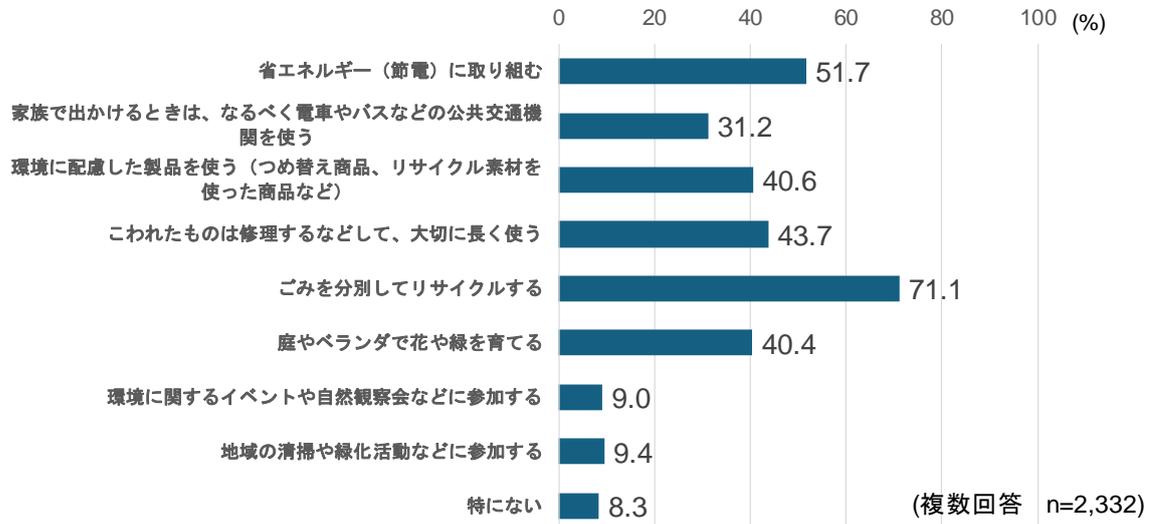


<大気や水の汚染などの公害問題>



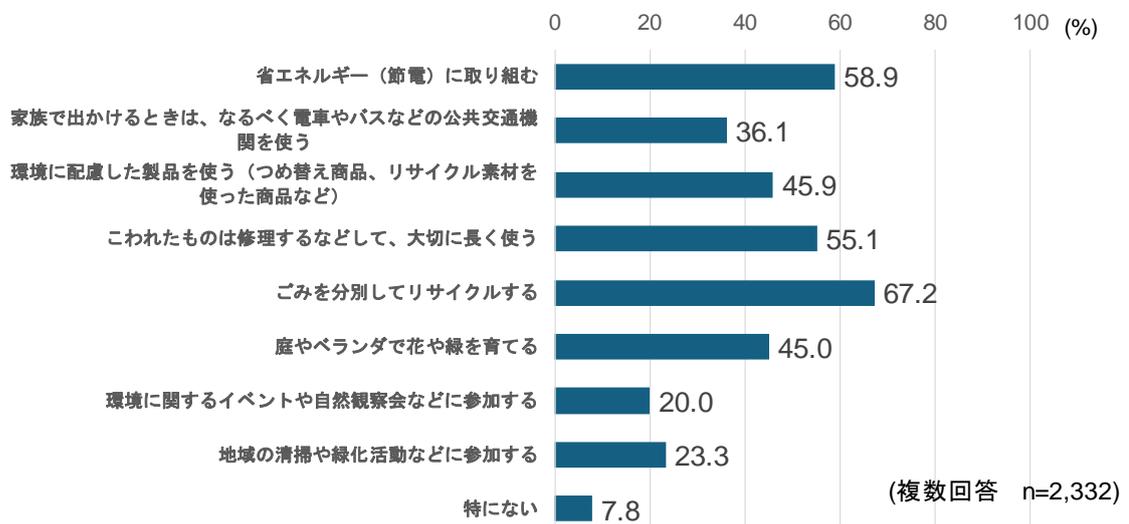
## イ 環境のことを考えて、家で実行していることをすべて選んでください。

「ごみを分別してリサイクルする」が71.1%と最も多く、次いで「省エネルギー（節電）に取り組む」が51.7%となっている。



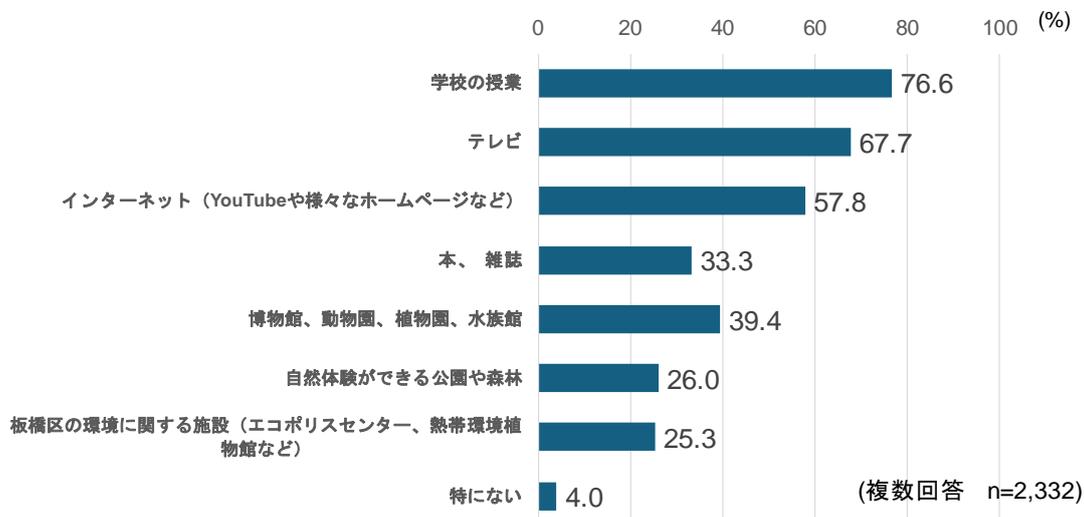
## ウ 環境のことを考えて、あなたや家族が家でこれからも続けたいこと、これから始めたいことをすべて選んでください。

「ごみを分別してリサイクルする」が67.2%と最も多く、次いで「省エネルギー（節電）に取り組む」が58.9%となっている。



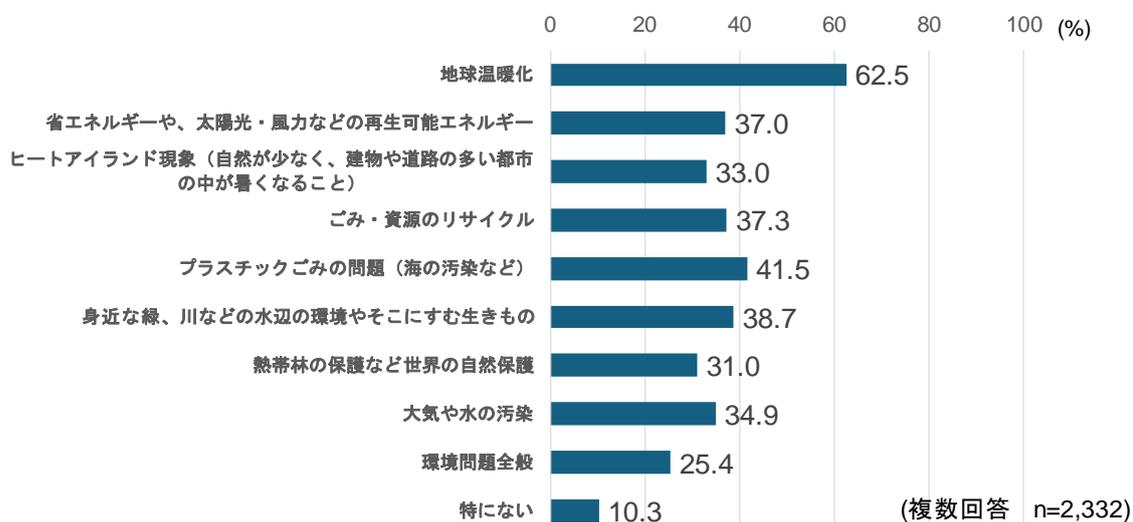
**エ あなたが 環境について知ったり、学んだりする方法について、あてはまるものをすべて選んでください。**

「学校の授業」が76.6%と最も多く、次いで「テレビ」が67.7%となっている。



**オ あなたが、学校などで学びたい環境問題は何ですか？ あてはまるものをすべて選んでください。**

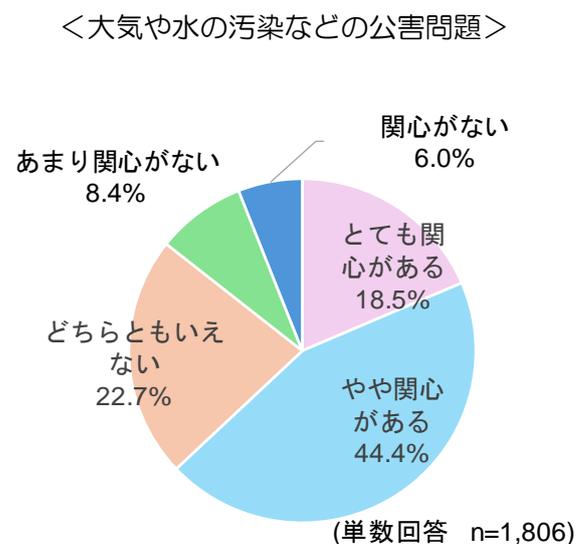
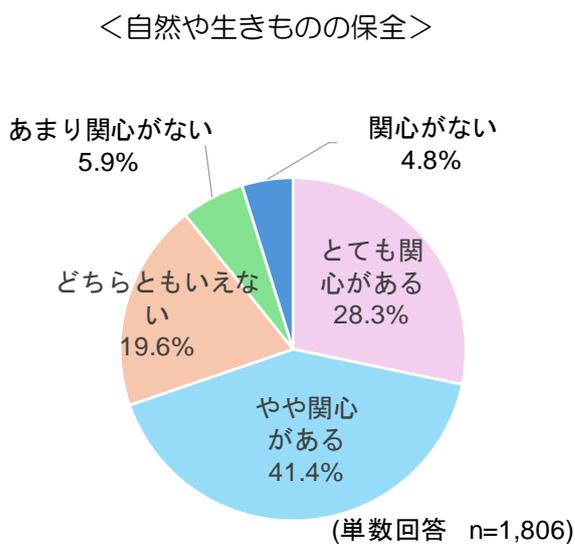
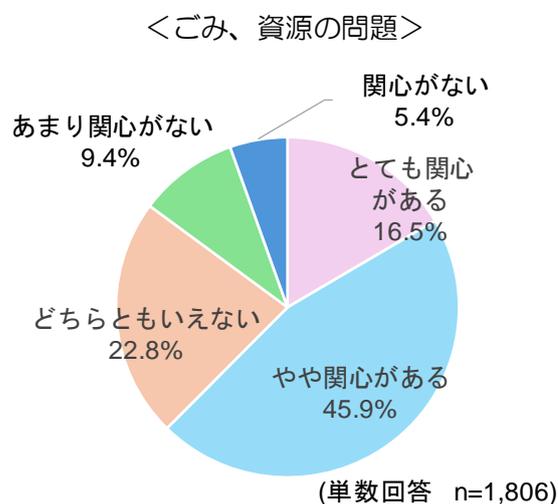
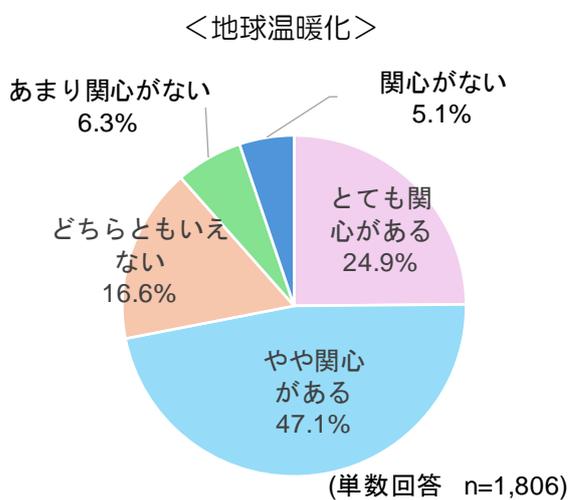
「地球温暖化」が62.5%と最も多く、次いで「プラスチックごみの問題 (海の汚染など)」が41.5%となっている。



## (2) 中学生

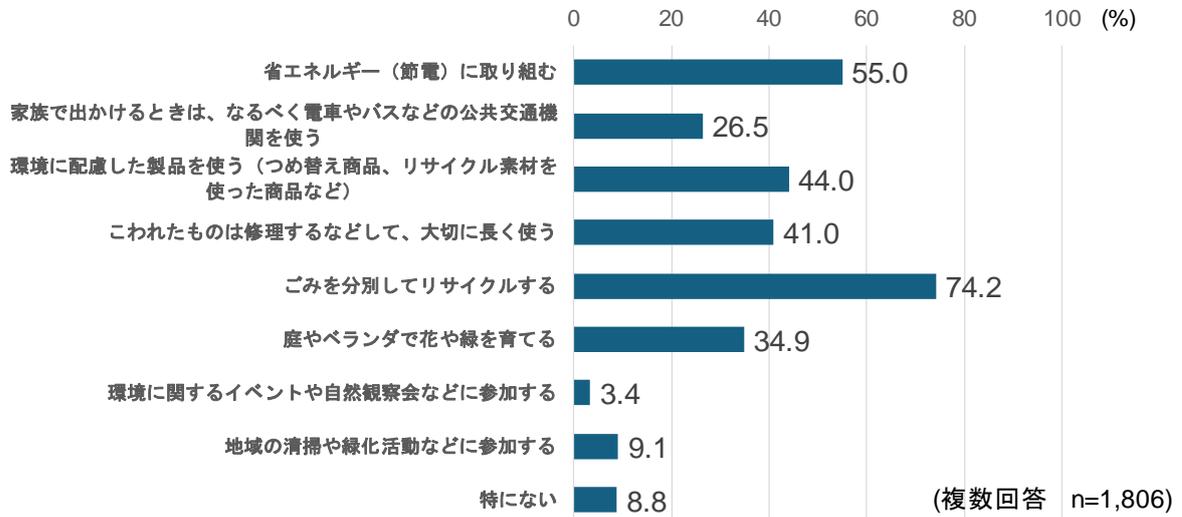
### ア あなたは、次の環境問題にどのくらい関心を持っていますか？

「地球温暖化」や「自然や生きものの保全」について、「とても関心がある」と回答した生徒が多く、それぞれ24.9%、28.3%となっている。



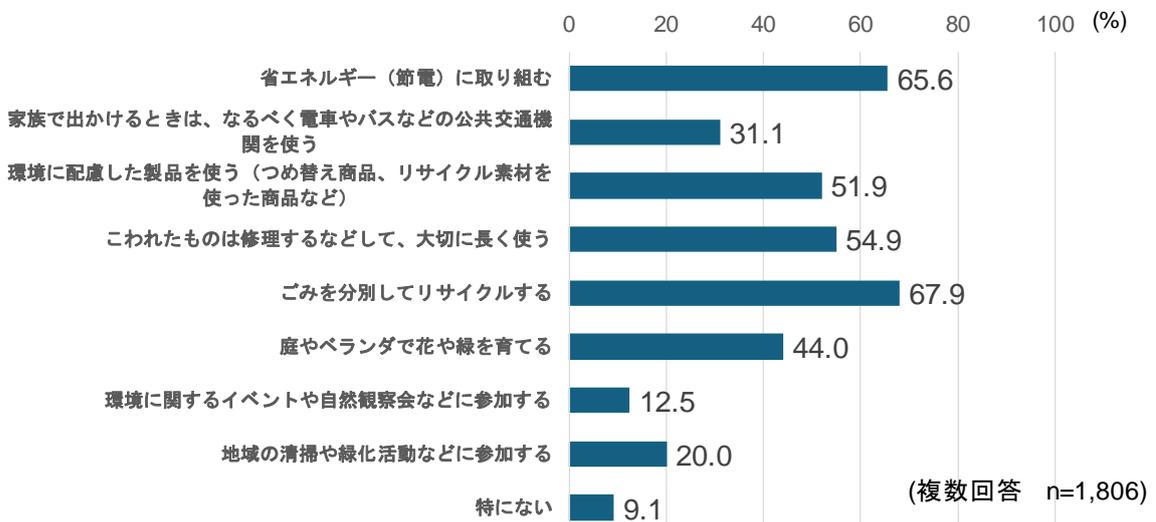
## イ 環境のことを考えて、家で実行していることをすべて選んでください。

「ごみを分別してリサイクルする」が74.2%と最も多く、次いで「省エネルギー（節電）に取り組む」が55.0%となっている。



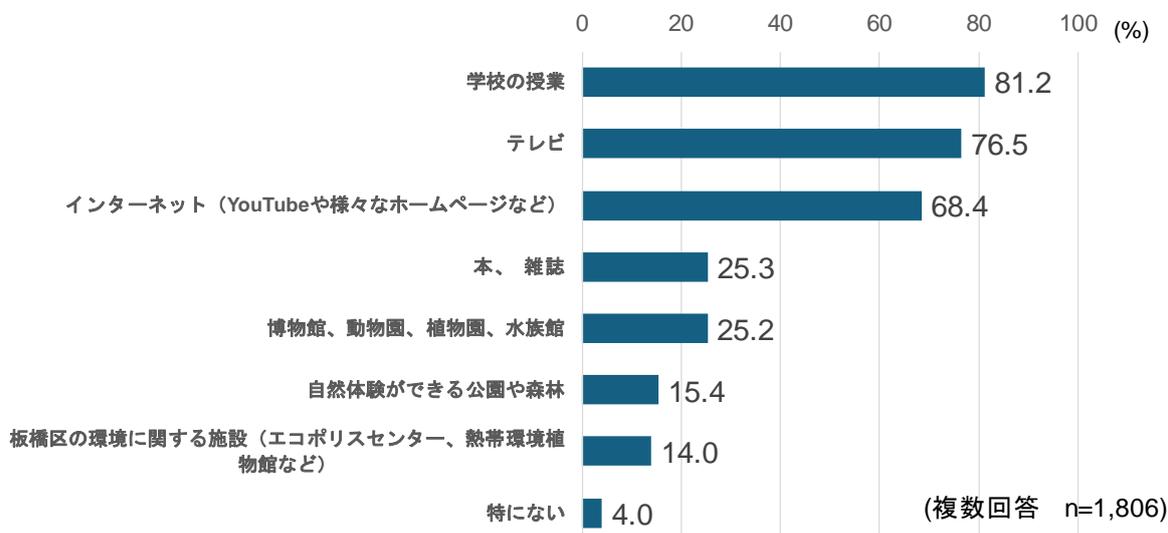
## ウ 環境のことを考えて、あなたや家族が家でこれからも続けたいこと、これから始めたいことをすべて選んでください。

「ごみを分別してリサイクルする」が67.9%と最も多く、次いで「省エネルギー（節電）に取り組む」が65.6%となっている。



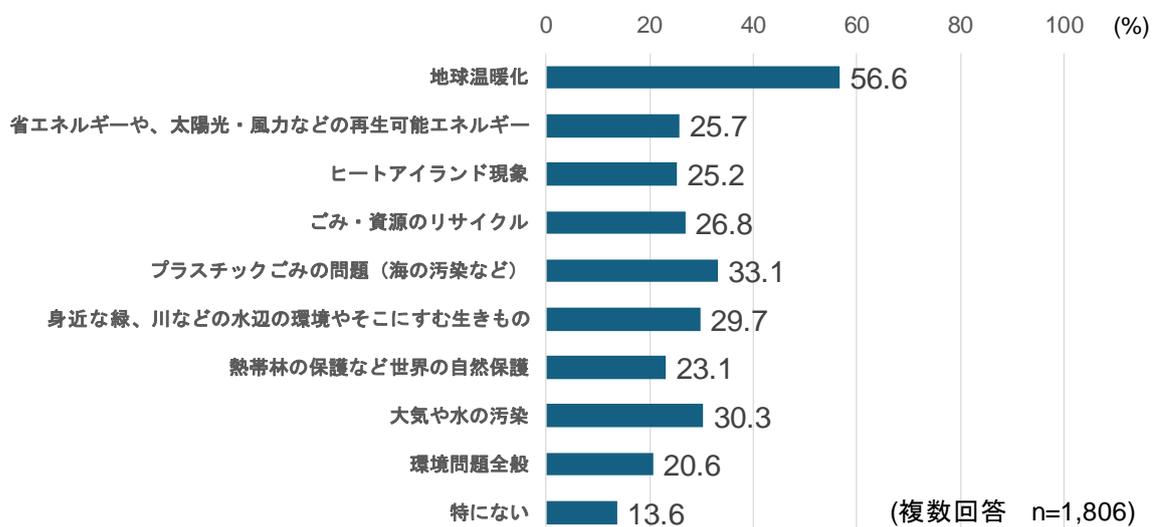
**エ あなたが環境について知ったり、学んだりする方法について、あてはまるものをすべて選んでください。**

「学校の授業」が81.2%と最も多く、次いで「テレビ」が76.5%となっている。



**オ あなたが、学校などで学びたい環境問題は何ですか？ あてはまるものをすべて選んでください。**

「地球温暖化」が56.6%と最も多く、次いで「プラスチックごみの問題 (海の汚染)」が33.1%となっている。



## 5 ワークショップ

### (1) 板橋区環境基本計画改定に向けたワークショップ 「板橋の環境の『いま』と 『ミライ』を考えよう」

- ・板橋区の環境の将来像として、みどりや自然を大切にすること、環境に配慮した行動や意識を持つこと、それぞれの主体が連携した実行性のある社会が求められている。
- ・「守る・つくる・育てる」、「(体験を) つなぐ・広げる」などのキーワードが挙がった。



#### 第1回「板橋の環境の「変化」を集めよう」の主な意見

<p>脱炭素 地球温暖化 エネルギー (1班・2班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の取組によって、区民の環境に対する理解が深まった。その一方、緑被率が低下し、自然の減少や気候の問題が起きている。</li> <li>・環境に対して取組む人の高齢化や若年層が少ないことが課題であり、個人としても意識が薄いため、区民の環境に対する意識向上や環境学習を青年へ広げる必要がある。</li> <li>・エコロジカル・ネットワークの考えがまだ広がっておらず、区民への啓発等行う必要がある。</li> </ul>
<p>資源循環 (3班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨てが減らない。</li> <li>・量り売りに対応した小売店が増えていない。</li> <li>・分別の種類は多いが、回収日が集中して混乱する。</li> <li>・企業への働きかけが不足している。</li> <li>・リユース・リデュースが大切にされていない。</li> </ul>
<p>生物多様性・ 自然環境 (4班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発等によって生きもののバランスが崩れてきている。</li> <li>・崖崩れが心配。</li> <li>・まちなかに増えたみどりもあるが、地域のシンボルとなるみどりがなくなった。</li> <li>・環境における活動への関心や気にすることが増えた一方で環境の悪化は仕方ないと思うこともある。</li> </ul>

## 第2回「板橋の環境の『未来』を考えよう」の主な意見

<p>脱炭素 地球温暖化 エネルギー (1班・2班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減により空き家が増えるため、空き家対策としても空き家に若い人を住ませる制度をつくる。一方、高齢者が増えるため、高齢者のための福祉環境を充実させる。</li> <li>・崖線等の板橋区の地形の特徴を活かした小水力発電や、屋上菜園におけるソーラーシェアリングによりエネルギーの地産地消を拡大させ、将来的には、水素エネルギーを利用する。</li> <li>・区の制度として、区内の樹木を樹木医に定期的に検診させ、緑を保全し、将来的には空き家、空き地などを公園にして緑地を拡大させる。また、浸透枳設置を普及させるなど、雨水対策を行う。</li> <li>・教育や啓発によって区民の意識を高め、デジタルの時代に昭和のような自然環境を再現する。</li> </ul>
<p>資源循環 (3班)</p>	<p>&lt;2050年の板橋&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心した災害に困らないまち</li> <li>・技術の進歩でごみが出ない社会</li> <li>・多様なバックグラウンドの区民が資源の大切さや、ごみ出しルールなどを共有、尊重する「共生の暮らし」</li> </ul> <p>&lt;2035年の板橋&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの視点を、大人（外国の方も含む）も学び、行動を見直す。</li> <li>・「買う側の意識向上」、「売る側の取組促進・モラル改善」、「区（行政）の目標・規制・奨励」の連携により、ごみとなるものを減らし、資源循環を促進する。</li> </ul>
<p>生物多様性・ 自然環境 (4班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の環境を守ることは大前提であり、「守る・つくる・育てる」をセットで取り組んでいくことが必要。</li> <li>・いまのアプローチ・行動だけでは、守る（維持）ことが難しく、アプローチ・行動の方法を変えることも必要であり、私たち自身が変わることも必要である。</li> <li>・アプローチ・行動を新しく考えて、取り入れていくことも必要である。</li> </ul>

第3回（テーマ：未来を実現するために「できること」を考えよう）の主な意見

<p>脱炭素 地球温暖化 エネルギー (1班・2班)</p>	<p>&lt;まとめ&gt; それぞれの主体が連携することが必要である。</p> <p>■区民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に対して意識のある人々が中心となり、責任ある行動によって確実に活動する。</li> <li>・エネルギーの無駄遣いをやめ、ものを大事に使う。フードロスを減らす（残さず食べる）。</li> <li>・区の制度を活用し、空き家に若者が住む。</li> </ul> <p>■学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学などが区や企業と連携し、環境製品などの研究・開発および研究者の育成を行う。</li> <li>・緑や自然に対する行動をもっと広げる。</li> </ul> <p>■企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮し、公害を防止する。</li> <li>・水素エネルギーを活用する。</li> <li>・再生可能エネルギーによる地産地消を行う。</li> </ul> <p>■NPO団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ネットワークを作り、行動する。</li> <li>・資金源を増やす活動をし、区民とともに活動する。</li> <li>・NPOの責任ある行動力を活かし、行動力とする。</li> </ul> <p>■区役所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区の制度として産・学・官・民で確実に実行できるようにする。</li> <li>・区民にわかりやすく理解できるよう説明し、実行する。</li> </ul>
<p>資源循環 (3班)</p>	<p>&lt;まとめ&gt; 3Rが重要であり、適切に実施されるよう教育、啓発およびインセンティブが必要である。また、目標を設定し行動することにより責任をもった実行が必要となる。</p> <p>■区民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別をきちんと行う。</li> <li>・環境負荷の少ない消費行動を実行する。(3Rの実現)</li> </ul> <p>■学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業などで野外に出て、雑草ではなく薬草や、食べられるものなどを体感させる。</li> <li>・地産地消を教育する。</li> </ul> <p>■企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源を守るうえでも、紙の利用を減らすような取組目標を定める。</li> <li>・ごみを出さない運営や3Rを実現させる。</li> </ul>

	<p>■活動団体（NPO団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりとした対価の支払いによりNPO団体における生活基盤を盤石なものとする。</li> <li>・3R教育の区民への伝承・普及</li> </ul> <p>■区役所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民が多国籍になりつつあるので、言語の多様化に特化する。学びの場としてエコポリスセンターを活用し、活性化させる。</li> <li>・統計データを公表することによって、設定した目標に対しての現状を把握し、将来予測を公表する。</li> </ul>
<p>生物多様性・ 自然環境 (4班)</p>	<p>&lt;大切にしたいこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の世代が大切にしていることを子ども（次の世代）に伝える。</li> <li>・体験をつなげ、広げる。</li> </ul> <p>&lt;できること&gt;</p> <p>①主体をつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民、事業者、区役所などの主体が連携する。</li> </ul> <p>②体験の場を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験、感動することが理解や行動につながり、そのような情報を他の人と共有することによって広がりができる。</li> </ul>

## (2) 子どもワークショップ「板橋の環境のミライをえがこう！」

- ・自然に関する意見が最も多く、「板橋区の環境のいいところ」として「自然や公園があるところ」、「板橋区の環境のミライ」として「自然や緑がたくさんあってほしい」を挙げた子どもが多かった。
- ・次いで、現状のよくない点として「ポイ捨てが多い」という意見が多く、「板橋区の環境のミライ」として「ごみのポイ捨てがなくなってほしい」という意見も多数みられた。

<p>今の板橋区の環境のいいところ・よくないところ</p>	<p>【いいところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や公園があるところ（同意見多数）</li> <li>・空気がきれい。まち並みが整っている。</li> <li>・環境や未来のためのワークショップなどができる施設がたくさんある。</li> </ul> <p>【よくないところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨てが多い（同意見多数）</li> <li>・みどりが少ない。</li> <li>・車が多くて、暑い。</li> <li>・歩道を広くしてほしい。</li> </ul>
-------------------------------	--

<p>こうなったらいいなと思う板橋区の未来の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然がいっぱい（同意見多数）</li> <li>・ごみのポイ捨てがない、きれいなまち（同意見多数）</li> <li>・日陰があって涼しい</li> <li>・みんなが過ごしやすいまち</li> <li>・月や星が見える</li> <li>・花がいっぱい</li> <li>・たくさんの生きものがある</li> <li>・環境にやさしい太陽光発電などがあって、地球温暖化がなくなる</li> </ul>
------------------------------	---



## 6 関係団体ヒアリング

区民への発信、体験を基に考える環境学習の重要性、主体間の緩やかな関係構築・支え合いなど、環境に関する取組の推進方策を重視

### (1) 板橋区における環境についての認識や課題

#### ①環境施策・エネルギー・自然

団体	内容
エネルギー供給事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板橋区は、大きな工業団地があるわけではなく、どちらかという住宅が多いと認識しており、住宅関係の対策を柱にするべきであると考えている。また、既存の住宅対策が必要であると考えており、特に給湯などの対策をどうするかということが住宅分野の課題であるのではないかと考えている。</li> <li>・まずは、省エネに取り組む必要があるのではないかと考えている。</li> <li>・集合住宅に対しては、給湯器を高効率なものに変更した方がよいのではないかと考える。</li> </ul>
環境活動団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板橋区の強みは、学校教育も含めて、環境施策の取組が区民に根付いており、長年取組を行っている点である。それを魅力としてどのように発信できるかということが課題であると思う。</li> <li>・南方系の蝶（ツマグロヒョウモン・ムラサキツバメ）等が定着してきており、温暖化の影響が伺える。</li> <li>・人為的な一斉刈りによって、食草が除去され、赤塚城址周辺のヤマノイモやトコロを食草とするダイミョウセセリがほぼ絶滅と思われる。</li> </ul>

#### ②環境教育

団体	内容
環境活動団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達は、自然に触れるなどの体験をすることにより、感性で何かを感じ取り、そこからさらに調べようとする。それが、学びや探求につながり環境や自然を守るための行動につながると考えている。</li> <li>・板橋区の環境力（環境教育を指導・助言できる、組織できる）の高い人材養成が遅れている（後退している）。板橋区全体が環境に対して意識する必要がある。</li> <li>・私たちの「いのち」は、自然の中の一部であり、環境問題は「いのち」にもつながると考えている。環境活動を行うことで、命でつながっているということを感じてもらいたい。</li> </ul>

### ③産業分野

団体	内容
産業団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業種によっても環境への取組に対する認識は異なってくるかと思うが、各企業も環境に対して取り組まなければいけないことは認識している。しかし、現状、そこまでの投資ができる企業は少ないと考えており、板橋区として産業分野で脱炭素への取組を行うのであれば、助成金を出したり、専門家を派遣したりするなどの取組を支援するようなことが必要であると考えている。</li> <li>・省エネについては、なかなかハードルも高く、可能な範囲でしか取り組むことはできないと考えている。エネルギー供給側が脱炭素化を進めなければ、需要側での取組には限界がある。</li> </ul>

## (2) 区やそのほかの主体との連携について

団体	内容
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区と個別での連携はあるが、企業・区民・教育機関における連携の場所があるとよい。</li> <li>・「板橋区SDGsプラットフォーム」が上手く機能し、事業者が社会貢献したい、人手がほしいという際に活用できればよいと思う。</li> </ul>
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政から取組のメニューや選択肢などの情報があれば、取り組みやすいのではないかなと思う。また、その取組によって、どのような効果があるのか、環境への負荷低減だけでなく、地域社会に貢献できるようなことがあれば取り組みやすいのではないかなと思う。さらに、それを後押ししてくれるような施策があれば多少の経済的負担があっても実行しやすいのではないかなと思う。</li> </ul>
産業団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板橋区が主導して団体を集め、意見交換を行うなりしてスタート地点をつくっていく必要がある。本気で板橋区が環境に対して取り組むのであれば、活動している団体、企業の意見をもとにそれを集約し、取り組む必要があるのではないかなと思う。</li> </ul>
エネルギー供給事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ機器の導入を加速させるような協働の取組など、なにかしらの実証はできるのではないかなと思っている。</li> <li>・包括連携の中で課題を共有しながら共創の場として機能すればよいと考えている。また、プロジェクトとして他の企業や大学等との連携も考えられ、包括連携をベースに他の連携も交えた体制ができればと考えている。</li> </ul>

### (3) 区への要望・期待

団体	内容
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が多く、環境への配慮も伺えるが、もっと板橋区民に対して発信をしてもらいたい。媒体にどれだけ挙げたとしても、それを良いと感じる人は少ないのではないかと考えており、活動する主体がどれだけ能動的に動くかが重要になると考える。</li> <li>・環境教育プログラムやエコポリスセンターなどの優れた点があるにもかかわらず、それらが区民に届いていない。</li> <li>・何か一つの最終的な目標があり、それに達成するという共通認識があれば協創の意識が生まれ、それが発信につながっていくのではないかと思う。</li> </ul>
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な目的がなくても、各団体のニーズや可能性についての情報交換を対面で行えるような機会（環境カフェ等）がほしい。 （web上で情報を出すだけでは探しに行く必要があるなどの手間がかかる）</li> <li>・エコポリスセンターは、アクセスの都合上、皆が行けるような場所ではないので、分散させるなどして、地域センター・まなぼーと（生涯学習センター）との連携等も必要になるのではないかと思う。</li> </ul>
環境活動団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板橋区は縦割りであり、説明も一方的で意見が出た際の対話がないのではないかと考えている。これからは、行政と区民がともに行っていくという意識がないと進んでいかない。</li> <li>・区役所の横の連携をしっかりと行い、部署間での情報交換や区民からの意見が出た際の窓口機能を果たしてほしい。</li> <li>・エコポリスセンターの維持管理にもお金をかけるべきであり、施設やイベントの魅力向上に努めてもらいたい。</li> <li>・板橋区グリーン条例のようなものをつくるべきであり、エコロジカル・ネットワークを区民の手によってつなげていくことが必要である。公園や学校のビオトープもエコロジカル・ネットワークの1つであり、自分事として取り組むようなみどりの政策が必要である。</li> </ul>
産業団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の計画には、「環境力の高い人材育成」というのがあるが、人材育成は環境だけに限らず、人としての教育という幅広い視野で考えてもらいたい。また、意識の高い教育者をどれだけ集められるかで変わってくるのではないかと思う。</li> </ul>

